沈默の愛

帝キネ　現代映畫

原作並脚色者　山内英三
監督者　木村荘十二
撮影者　立花幹也

――主要役割――

妙子　歌川八重子
その夫東條　高島豊
その弟信二　牧英勝
同少年時代　鈴木勝彦
嘉雄　下田寛
多美子　注川珠子
手塚　淀川辰夫
伊達　手塚榮一
無頼漢　山口鐵太郎

解説――木村荘十二氏の「都會病患者」に次ぐ作品である。

略筋――少壯檢事東條の妻妙子は、愛兒嘉雄にアメリカの伯母から一萬圓の信託證書を送つて來た事を聞いて、今更のやうに母親らしい喜びに浸つてゐた。だが、それと同時に數年前出發したまゝの東條の弟信二が突然歸つて來た事を知らされた。曾て信二は妙子への求愛者だつた。妙子はそれを退け、兄の東條と結婚する事になつたのである。荒みきつた顏になつた信二の申出は莫大な借金だつた。拒絶すれば昔の事を兄の前にバラしてしまふと云ふ。妙子はたゞ嘉雄の幸せを念ずるばかりであつた。ふと目についた例の信託證書と東條の實印を淺つた信二は、惡黨仲間のリーダー手塚から兄の名で金を借りた。だが手塚の鋭い眼はちらと端を見せた金の筋を見逃す筈がない。手下を使つて信二を袋叩きにし實印も信託證書も自分の懷へ捻ぢ込んだ上、罪に脅えてゐる妙子を脅し、物にならぬ事を知ると一切を東條にぶちまけてしまつたのである。自分の職責を痛感した東條は、たつた數分間の辭職の暇も許さず斷乎として最後の手段をとつた。妙子の心は悲しみの極自暴自棄に陷らうとした。この隙へつけ込んだのは手塚だ、からうとして第二の過ちはまた犯され、手塚の仲間となつた妙子の行方は、その一味ともども杳として知るものもなかつた。十數年は夢の間に流れた。嘉雄は父の慈しみと許婚多美子の優しさの中で輝く將來を夢みる若々しい大學生だつた。と或る日彼は父の助手として出張した木賃宿、殺人事件現場で世にも意外なものを發見した。手塚と手下二人をピストルで殺した上海戻りの中毒女は母妙子だつたではないか。そして偶然隣り合はせの泊り客になつた病みさらばへた信二の告白に依つて一切は明らかになつた。犯人と檢事と、妻と夫の間に十數年途絶えた暖い愛が流れ始めた。「あなたのお母さんはこんな女ぢやありません」信二に抱かれながら妙子は微笑と共に冷くなつて行つた。

寫眞　「沈默の愛」帝キネ木村荘十二作品。右より牧英勝と歌川八重子。